

ミルクィーウィーンフィーダーを使ってみて

尾野寺 崇 (株シムコ)

All about SWINE 54, 20-22

株シムコでは大館 GGP センターで2016年より離乳リキッドフィーダー（以下、ミルクィーウィーンフィーダー（商品名））を使用しています。皆さんご存知だと思いますが、ミルクィーウィーンフィーダーは温かいミルクを一定時間自動で給与する給餌器です。使用した実例を紹介したいと思います。

1. ミルクィーウィーンフィーダー導入のきっかけ

株シムコ大館 GGP センターではランドレース・大ヨークシャー・デュロックそれぞれの純粋種の育種改良に日々取り組んでいます。純粋種であるため雑種に比べて弱いということ、また泌乳量データ蓄積のために里子と人工乳給与の制限があり、離乳時に淘汰をする虚弱子豚が少なくありませんでした。そこで淘汰を減らし1頭でも多くの子豚を離乳舎へ移動しようと、ミルクィーウィーンフィーダーを試してみることになりました。フィーダーはグローバルピッグファーム(株)より購入しました。

2. 使い方

当農場では基本的に離乳後に小さくて離乳舎に移動できない子豚を隔離部屋で飼育します。離乳時に2kg以上5kg未満の子豚をミルクィーウィーンフィーダーで飼養します。

また授乳母豚に異常があって哺育できなくなった場合も子豚を生かすために使ったこともあります。離乳後の子豚と混ぜることになるのであまり上手くいきませんでした。

3. フィーダーの特徴

- ・水量調整ノブを回すことでミルクの濃度調整が出来ます。
薄いと水分が多くなり良くない気がしますが、濃過ぎると練り餌状となり体表にミルクが付着することで体を冷やします。また水量を絞すぎると餌が詰まることがあります。
- ・1時間中の合計最大稼働時間を5分単位で設定できます。(最大60分=不断給餌)
- ・稼働前にはピーという音が鳴り子豚に今から出ることを知らせます。
- ・10分以上連続稼働する（子豚が飢餓状態の場合）と間欠運転モードになり30秒毎に運転・停止を繰り返します。この場合は設定時間が短い、または収容頭数が多すぎます。
- ・群が小さすぎるとタイマーを最小の5分に設定しても飲み切れずに残ってしまうので、飼育する頭数は10頭以上が望ましいと思われます。また頭数が10頭以上でもミルクが不足しないようにという思いから、出る時間を長くしすぎると皿に残ったミルクが冷えてあまり飲まなく

なります。ミルク量がセンサーより下がらないと新しいミルクが出てこないで、一度古いミルクが残ると長時間冷たいミルクが減らないままになってしまいます。できるだけ飲み切れる時間設定にした方が良いと思います。しかし、空になるのが早すぎると小さい子豚が後からゆっくり飲めなくなるので、よく観察して出る時間を調整しなくてはなりません。

4. 飼育法

当農場では離乳後の子豚に使用するので日齢は3週齢以上ですが、受入後最初の2、3日は人工乳を混ぜないで代用乳のみの方が嗜好性が良く喰い付きが良いようです。その後人工乳前期を混ぜていきます。ミルクィーウィーンフィーダーとは別に哺乳仔豚用の給餌器で代用乳と人工乳を混ぜたものをドライで給与しています。大きくなると(6kg以上)斜めに首を突っ込み、小さい豚が皿に顔を入れる邪魔をするので6kg前後からドライフィーダーの豚房に引抜いて人工乳前期の粉餌に慣らしていきます。受入後2週後に6kg以上、3週後に6.5kg以上を目安に離乳舎へ移動します。3週後までにはほとんどの子豚が離乳舎へ移動することが出来ますが、受入時に3kg以下の子豚は離乳舎移動まで4週間かかる場合があります。またおよそ3kg以下の小さい子豚は皿の中に入って体が濡れてしまい寒がりますが、数日で慣れて濡れなくなってきます。

フィーダーの中に入れた飼料は中央から減っていくため、外から見て入っていると思っても蓋を開けて中を見ると中央出口の飼料が無くなっていることがあります。朝夕の管理時にはフィーダー内壁際の飼料を中央へ寄せる必要があります。

5. 使ってみた感想

ミルクィーウィーンフィーダーでの飼育は母豚につけるよりも下痢の頻度が高くなる印象ですが、飼育に上手くいった時は先に離乳舎へ移動した子豚を追い抜く程の増体があり、離乳後に小さくて淘汰をする頭数が格段に減少しました。また離乳舎での子豚の体重のバラツキが減少しました。その分、代用乳の使用量が増加しますが、それを補って余りある効果だと思っています。

近年多産系母豚が普及し産子数増加の恩恵に預



ミルクィーウィーンフィーダーでの飼育

2016/2～2016/7 生の子豚 216 頭をミルクィーウィーンフィーダーで飼育した平均値

受入日齢	受入体重	2 週後の体重
24.7 日	3.7 kg	6.8 kg

かる一方で、生時体重の低下・バラツキによる哺乳中事故率の増加、また母豚一腹につける頭数が多いため全頭に十分な母乳が行き渡らずに離乳体重の低下・バラツキが懸念されます。その場合に

生後数日で大きい子豚をミルクウィーンフィーダーに引抜き、小さい子豚を母豚で哺育させる使い方も聞かれるようになっていきます。